

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	長年住み慣れた地域で暮らすことの大切さを理解し、グループホームとしての役割を考えた理念としてとらえており、地域交流を大切に、8月は地域主催の盆踊り、1月は地域の方を交えての認知症サポーター養成講座を実施したりしている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有するため意識づけていくよう名札の裏に理念をいれており、形だけでなく常日頃よりサービスの場面(声掛け、態度、記録等)の中で利用者の方を尊重し、信頼され安心して生活ができるよう実施している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所を訪問された方が視野に入る様に、リビング、事務所に提示しており、パンフレットや毎月発行の通信にも理念を書き入れたりしてご家族にも事業所の考え方をお伝えしている。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方とは日頃より入所者と犬の散歩に出掛ける際、気軽に挨拶を交わしており家になった果物を持ってきて頂いたり、又、入所者と一緒に歌ったり踊ったりとレクレーションにも参加していただき、いろんな面でおつきあいをさせていただいている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板を回していただくたり、事業所が開催地となり認知症サポーター養成講座に民生委員さんに声掛けして頂き多くの方に来ていただいたり、地域主催の盆踊りに参加したりしている。その時ホームの紹介をしてグループホームに対する理解や協力を得られるよう交流に努めている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所が開催地となり包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座を1月に開催し、40名弱の方が集まり地域の高齢者の暮らしに何か役立てばと包括支援センターと連携を取りながら取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、介護主任は、自己評価を実施する意義を職員に説明し、各職員と検討して改善出来ることはすぐに実行に移し、具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の取り組み状況を報告し、率直な意見を出して頂くよう伝え、そこでの意見をサービス向上につながっていくよう、取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからない事があれば、市町村の介護保険課や包括支援センターに連絡したり、又行き来してすぐに対応して頂き、その後調べた情報をすぐに教えて頂き市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいることを実感している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市町村とも相談し必要のある方は関係者と相談し、包括支援センターが介入し現在手続きを開始し支援を行っている		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止について正しく認識しており、利用者には虐待が一切行われない様職員間でもお互い見過ごされる事のない様注意を払っている		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には契約書を渡し、文書・口答で十分説明し、ご本人・ご家族の方に不安・疑問点を尋ねて頂き納得していただくよう努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より何かあれば管理者・職員に話してもらうよう伝えており、又運営推進委員会に利用者の方にも参加して頂き意見をもらっている。それを運営に反映させている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等は、御家族が訪問された時個々に合わせた報告をしている。又、定期的にお手紙でも報告させていただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を玄関のわかりやすい所へ提示している。入所者やご家族に折に触れご意見相談等があれば遠慮なく言って頂くよう伝えている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者は職員と理念を踏まえた上で、共通の価値観や方針を持つためにも、十分話し合い連携を取り、互いの意見を尊重しサービスに反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1ユニットで職員が少人数の中でも状況(外出時、利用者、家族の状況の変化等)に応じ、人数の調整をするなど柔軟な対応をするよう努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑える努力をし利用者が安心して馴染みの関係が継続できるよう努め、変わる場合はダメージを最小限にする配慮を個別にしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたって性別、年齢は制限してない。働く職員に能力を発揮出来るような係を担当してやり甲斐を持って活躍してもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権を尊重する為に職員等に対して会議・カンファレンス又実施を通じて、常日頃より話をしいき啓発活動に取り組んでいる。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修で職員の質の向上を目的として現場責任者が研修を行い、又外部研修にも参加する機会を設けセンター方式に現在取り組んでおり、全職員でそれを生かし次回の外部研修で発表の機会を設けたりトレーニングしている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、管理者は職員が地域の同業者と交流できるよう、研修会に積極的に参加してサービスの質の向上に向け取り組んでいる。また、同グループホームと蜜柑狩り等を合同で開催も実現し今後も取り組んでいきます。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者またはリーダーが職員の抱えている問題を聞き、気兼ねなく話し合える雰囲気を作るよう親睦会等の機会を作っている。又、気晴らしが出来るよう環境づくりに取り組んでいる		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者や職員に個別に適した役割を持ってもらい職員の努力や実績を認めやり甲斐をもって働けるように取り組んでいる。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居までの間、本人とも面談をし、場合によっては自宅や入院先に訪問し、不安や要望を聞き少しでも不安を取り除いて入居につなげている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入居までの間、納得がいくまで何度も話をする機会もつくり見学もしていただき納得されてから入居につなげている。入居後の初期段階も家族と連絡を取り合っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人と家族によって現在必要としている支援を見極め、他のサービスが適切と思われたら他のサービスを進めたり、相談機関の紹介をしている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学をしてもらい、職員や他の利用者の方とも、接して頂いたり、場合によっては体験的に入所していただく場合もある。個室なのでプライバシーの確保が出来ることも安心していただけるよう話している。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を共にする事でどんな考えがあるのかどうしたいのかわかる様信頼関係を築き理解し合える関係を作っていきたいと考えている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に職員と家族がともに協力して支えていく関係を築いていっている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	すべての事を家族に伝えるのはむずかしいため交換連絡ノートを作り日頃の生活や気づいたことなど伝えるようにしている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪問したり電話で応じたり出かけたりできるように支援に努めている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で利用者同士の関係を把握し、トラブル事も多々あるが受容しながら双方の関係が悪化しない様に職員同士もチームワークを充実させながら支援に取り組んでいる。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても必要とするご家族にはいつでも相談していただけるよう大切にしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活習慣や思いを出来るだけ把握し、利用者の意向に沿うよう努めている。困難な場合は十分判断しながら取り組んでいる。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの以前の生活習慣などを把握し、現在必要としている事は何かを見極めるよう努力し取り組んでいる。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者のそれぞれのペースにあった生活リズムを尊重しつつメリハリのある集団生活を送っていただけるよう努めている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族 職員、主治医、入所前支援事業所に助言を求めたりその時の状況にそった介護計画を立てている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回以上は会議の場を持ち、変化が生じた場合は即話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の様子やケアの実践チェックやレクレーションの参加結果等、諸々の気づき、工夫を個別に記録し、情報を共有しながら職員で実践の評価を確認し次の介護計画の見直しに活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のその時々々の状況に応じ外泊や外出するなどの支援をしている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の生活の安定や拡充の為、民生委員や消防、ボランティアなど地域の公共機関等にも協力を得ながら支援している。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や必要性に応じて他のサービス事業者と連携をとっている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、包括支援センターが介入していただき成年後見制度の手続を行っている。1月には包括支援センターが主催で認知症サポーター養成講座を事業所を会場にし協働して行った。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談の上希望を重視し、納得の上医療機関を受診していただいている。特にない場合は事業所の協力医療機関を受診していただくようにしている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医等も受診しており、医師と関係を築きながら職員が相談したり、主治医から、家族や職員へも指示、助言をしていただいている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の利用者を良く知る看護師に日常の健康管理等相談もしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族や医療機関(地域連携室)と情報交換を密にし、入院先を訪問して主治医等から情報を把握しながら、早期退院に向けた支援を行っている。また、そうした場合に備えて連携に努めている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合いをしていくようにしている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要に応じて、重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、「出来ること、出来ないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組む準備をしている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退去の前後には、家族等は、もちろんのこと本人に関わる保健医療福祉の関係者と十分な情報交換と話し合いを行いダメージを最小限にするよう努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方に尊敬の念を持っており、プライバシーを損ねないよう配慮して介助している。個人情報規定に遵守し誓約書も書いている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己主張の強い方が多いので、希望に合わせ自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の日課、スケジュールは決めているがその時、その場に応じて、見守りしながら、希望のスタイルに合わせるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれが出来るよう一緒に買い物につれていき本人に選んでいただいたりしている。行きつけの美容院がある方はご家族と一緒に行かれている。行けない方は、施設内で美容サービスを受けて頂いている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	穏やかな雰囲気の中で会食が出来るよう音楽を流したり、一人ひとりの好みを生かし利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む飲み物、おやつ、たばこなどを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力量に応じ、排泄のパターンや習慣を活かして気持ち良く排泄できるよう支援している。間に合わず失敗がある方は前誘導行う支援をしている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の曜日や、時間帯は決まっているが希望や、体長に応じての入浴をしていただいている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時の状況に応じて、自室でくつろいだり、和室で横になったりして休んでいただいたりしている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味、能力に応じた役割や楽しみごとと持って、笑顔のある日々を過ごせるように支援している	○	利用者が能力を十分発揮でき主体的となれるよう取り組んでいきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の不安要素となる為基本的にはお預かりしているが、お金を持つことで安心される方は小額を持って頂いている。また、外出時には自分で支払う場面も作る様にしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺の清掃は能力に応じていただき、やりがいを感じておられる。散歩では犬を連れて行ったり季節の庭木を見ながら等の支援をしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい所があれば、できるだけ実現できるようご家族とも協力し支援している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればサポートしてかけて頂いている。郵便物の発送も支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	事業所側も御家族、親類の方、知人等に気軽に来ていただけるように伝えている。又お茶等を出し、和室や自室と一緒にくつろいでいただいたりもしている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害について理解し、身体拘束をしないケアの取り組みをしている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が日中鍵をかけることの弊害を理解しており、見守りの強化や玄関のセンサー等の工夫をしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	様々な場面において、職員は利用者のプライバシーに配慮し、昼夜を通して利用者の所在・様子を把握し安全に配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの希望に応じ、危険性等を職員、家族と話し合いその方の力量に応じた形で、物品の保管、管理している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危機管理に対する知識を学び、ヒアリハットや事故報告書も全職員に周知し同じ事故を繰り返さない様、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを整備しており内部研修を行い、急変や、事故発生時に冷静に対応できるよう話し合っている。	○	今後更に全職員が適切に対応できるよう応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行うよう取り組む。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時、どのように非難するのか実施訓練をし、あわてずに対応できるよう準備している。又、近隣の方々の協力も得られるように日頃から馴染みの関係を作っている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりうるリスクについて、家族等に説明している。身体拘束のないケアを前提として抑圧感のない暮らしができるように支援している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め気付いた際は情報を共有し家族に連絡を入れ対応の相談をしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋や、医師からの助言等で一人ひとりの服薬内容を理解しており服薬を見届けている。又、副作用があれば主治医に相談している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や、便秘が続いた場合の悪影響を理解しており、予防と対応のための飲食物の工夫や日常的な運動等の支援もしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は口腔ケアの重要性を認識しており利用者一人ひとりの力に応じ毎食後の口腔ケアの支援をしている。また訪問歯科を導入し職員や利用者正しい口腔ケアの方法などをアドバイスしていただく等の支援の計画をしている		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	トロミ剤を好きではない利用者に対し、シチュー、ヨーグルト、プリン等、トロミ剤を使用しなくても飲食していただけるものを提供し喜んでいただけました。又、トロミ剤を使用した際にも盛り付けを工夫し楽しく食べていただけるように配慮		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを備えておりインフルエンザの情報等に注意をはらい予防接種をしている。又、生活環境の面でも予防に努めている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いを励行し、手指消毒も行っている。調理用具も肉、魚、野菜と使い分け使用後の消毒殺菌等、衛生管理に努めている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	観葉植物を置くとともに職員は来客を笑顔で迎え、親しみやすく安心して出入りしていただけるように努めている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者にとって居心地良く過ごせるような場所となる様に生活感や季節感を取り入れた工夫をしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローリングのリビングの脇に畳敷きの和室を設け、一人になったり思い思いに過ごせるように工夫している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の協力の下、思い出の品や使い慣れた家具類を置き、テレビを置いたり居心地良く自由にプライベートの時間を過ごせるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	不快が臭いがない様換気に努め、温度調節は外気温との大きな差がないよう配慮し、冬場は加湿器を使用したり利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして自立した生活が送れるよう家具の配置など考え安全に生活が送れるよう工夫している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの残された力を発揮して達成感や自信につながるように、出来ること出来ないことを見極め混乱や失敗を防ぐようサポートし、自立につながるよう支援している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺にプランターを置き球根を植えたり、犬小屋を置き犬を飼っており、犬と戯れたり等して利用者が楽しむことができるように活かしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 ○ 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き生きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない